

# 東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連携し「民医連ここにあり」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 26 2011. 4. 1 14:00 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren. gr. jp

## ◇大震災から3週間！すべての被災地を視野に 必要とされる支援を！◇

震災から3週間が経ちました。被災地で求められている支援内容も、変化しています。長期にわたる生活支援が求められます。全日本民医連では、4/2(土)緊急理事会を開催してあらたなステージに対応した4月以降の支援方針を決定します。

### 東日本大震災 被災地支援の記録② (福島県南相馬市3/26~27) 民医連HPおよび You Tube にアップされました

南相馬市の現状、福島民医連のとりのくみと地域の苦悩がよくわかります。今後の支援のあり方を考えるうえで大変学びになる内容です。ぜひ、職員集会などで活用してください。

<http://www.min-iren.gr.jp/html/menu8/index.html>

### 福島・小名浜生協病院への看護支援の具体化を

小名浜生協病院のあるいわき市は人口約34万人。震災・津波被害と原発事故により3~5万人程度の人が県外へ避難したと言われていています。福島第一原発からの距離は53km。地域住民には緊張感が漂っています。市内では数カ所の病院が閉鎖しています。

ガソリンが大変不足しています。水道は徐々に復旧していますが、小名浜生協病院には4月中旬になるとのことで、医療活動継続のために水の確保が悩みです。スーパーでの買い物もできません。

職員のなかには、津波と原発の関係で避難したり、あるいは一度避難したものの、家族を残して戻ってきた方もいます。家を津波で流された方もいて、ストレス要因も重なっています。県連からは看護師・薬剤師の支援要請がされており、全日本民医連として具体化を図ります。

### 坂病院 震災から3週間の節目に全職員集会

震災から3週間という節目にあたり、坂総合病院で全職員集会が開催されました。

まず、震災で亡くなられた方に対して黙祷をささげました。続いて、全日本民医連・廣田次長から、現時点での全国からの支援者の数の紹介と、震災2週間目に全職員に発信された藤末会長のビデオメッセージを上映しました。今田院長の挨拶では職員の多くが被災しながらも、震災直後から献身的な救済活動と、坂の医療保持のために全力をあげて奮闘されたことに対して、心から感謝の意を表明されました。

職員の発言では共通して、自らも厳しい環境におかれても、坂の医療をなんとしても守らなければならないという気概で、家庭をも顧みないで頑張ったことが、涙ながらに語られました。また、震災直後から全国から民医連の仲間の支援が始まり、民医連のすばらしさを改めて実感したことが語られました。

18日間にわたる避難所に対する医療活動の概要も報告されました。それによると、多賀城市の14カ所の避難所では2729人の診察を、塩竈市の16カ所の避難所では573人の診察を行い、両方で2167人に処方をしたとのことでした。

民医連の医療チームは、全国からの混成チームにもかかわらず、どこの医療チームよりもチームワークとフットワークでは最高のチームで、被災者の医療要求に即した活動を展開しました。

避難所での要求は日々変化します。最近では「足湯」が人気です。避難所で生後2か月の新生児の沐浴をするといった経験も紹介されました。最近では廃用予防のために、避難所で2時間程度のデイケアなども行っています。

精神科の医師からは、職員や被災者のメンタルヘルスについて話がされました。

最後に職員一同のアピールが読み上げられ、全員で全国への感謝の意を表した横断幕をバックに記念撮影を行いました。



## 岩手民医連 大船渡市の支援に入ってー

岩手民医連は、28日・29日と大船渡支援に入りました。赤崎地区、蛸の浦地区を盛岡医療生協が担当し、継続的な支援も要請されています。対策本部では要請に最大限応えていきたいと考えています。30日からは、北海道民医連の支援隊(8名!)が1週間の予定で入っています。

### = 小野寺理事長に現地の状況を聞きました =

- ー自治体の機能が麻痺している状態になっています。医療、物資、住民全体について統括している人がいないように見えました。被災地域では自主防災組織ができていて、その責任者を通じて情報や物資が行っている状況のようです。
- ー被災地の健康管理は保健師が担当していますが、一人ではなかなか把握しきれない状況です。
- ーこうした状況ですから、保健師と地元の医師会や県立病院とうまく連携がとれていません。
- ー私たちは、市に要求や要望を出す状況にないと判断して、自己完結型でやるから私たちに地区を任せてくれないかと提案してみました。そしたら継続して支援してもらえたらお任せしたいということになりました。最初是对応も良くなかったのですが、この間の支援で信頼ができたのだと思います。そういう点では神戸隊のみなさんの活動があったからだと思います。
- ー赤崎地区と蛸の浦という地域を任せられ、28日と29日に医療支援に入りました。この2つの地区で7つの避難所があります。赤崎の漁村センターというところを拠点に、各避難所を回ってみました。お風呂に入れない方やこの間のできごとで泣きやまない子どもがいる。みなさん、やっぱり疲労が蓄積されてきています。
- ー気になるのが、保健師や行政の職員が疲弊していることです。実際に被災して、自分も避難所に泊り込んでいた方もいました。職員に負担をかけないで支援をするということも大事なことだと感じています。
- ー30日からは北海道の方々に支援に入ってもらいます。1週間の支援ですので、より被災者の要求を把握できるのではと思っています。
- ー被災地は日一日と変化していています。全日本民医連からの支援を受けて長いスパンで支援していければと思っています。

## 支援者を送り出す側のみなさんへ

支援先と日常の環境とは、大きなギャップがあります。本人が感じる以上に、心身ともに疲労がたまっていきます。支援から帰ったら、しっかり休養をとることが大切です。支援者それぞれの思いを聞いて、必要なフォローをお願いします。

**支援者到達(1日現在)：1420人(医師260人、看護師424人、事務392人)！**  
**本日の支援者数は222人！延べ数は6,303人となりました！**  
**支援募金到達：9,200万円を超えました！**

### ◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

☆状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。